

平成21年11月18日

各 位

会社名 株式会社ネクストジャパンホールディングス
代表者名 代表取締役社長 藤澤 信義
(コード番号 2409 東証マザーズ)
問合せ先 常務取締役 沖 聡
TEL 06-6330-7878 (代表)

資金の借入に関するお知らせ

当社及び当社の連結100%子会社である株式会社ブレイクは、平成21年11月27日付けにて資金の借入を行うことを、本日開催の取締役会において下記の通り決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 資金の借入の理由

当社が属するアミューズメント業界は、現在は独立系のオペレーターが多数を占める中小企業が多い業界ではありますが、業界全体の収益が低迷する中さらに企業間の競争が激化しており、今後においては業界内の企業再編及び淘汰がより進むであろうと考えております。

こうした背景の中、当社の資本・業務提携先であるアドアーズ株式会社（以下、アドアーズ社）は業界では独立系オペレーターの雄であり、業界の淘汰・再編後を見据えた上では、同社のような相当規模の運営力並びに資本力を有した企業が牽引していくものと考えております。こうしたアミューズメント業界での再編を見越し、当社としても独自の成長戦略だけでなく、アドアーズ社との優先的かつ一層の協業体制の深化による競争力及び収益力の向上並びに業界での主要プレーヤーとしての優位性を早期に確立することが急務であると認識しております。

一方、当社とアドアーズ社との資本・業務提携（平成21年5月13日及び同年9月14日付締結済みの資本・業務提携）のさらなる深化を進めるにあたり、両社の主要株主や従業員を含むステイクホルダーへの影響等にも配慮する必要があり、当社としていかに提携を早期に進めるかを模索しておりました。その中で、長期保有の観点からアドアーズ社を支援している同社筆頭株主（同社の発行済み株式の37.4%の普通株式20,500千株を保有）であるGF投資ファンド投資事業有限責任組合（以下、GFファンド）とも良好な関係を構築すべく複数回の折衝を繰り返す中GFファンドに大口の資金需要があることが判りました。同ファンドはファンド自体及びファンド出資者の信用力で、金融機関から資金調達した上でアドアーズ社へ出資しておりました。しかしながら、その資金調達条件が昨今の金融情勢の急変で以前と比べ大幅に悪化し、一時的にGFファンドの出資者の一部が経営する株式会社ガイア（以下、ガイア社。住所：東京都中央区日本橋横山町7-18、代表者：荒井晃広、事業内容：パチンコ・パチスロ施設の運営、資本金：5,910百万円）がつつなぎ融資的にGFファンドへの貸付を肩代わりしておりました。事業会社であるガイア社と投資事業を目的とするGFファンドとは元々独立した経営・運営している為、GFファンドとしてはガイア社による緊急避難的なつつなぎ融資は早期に他金融機関等の第三者から資金調達をすることで解消したいという事情がございました。また、GFファンドに対する貸付の肩代わりを出資者個人から行うことも選択肢としては存在いたしますが、出資者個人による資金支援は段階的・順次実施していきたいとの意向もあり、そこで当社といたしましては、GFファンドへアドアーズ株式を継続保有するための資金を融資することは、当社とアドアーズ社との資本・業務提携の安定化と加速化、並びに当社の今後の成長戦略に直結すると判断し、当社がその必要資金である40億円を融資することで合意に至りました。なお本件により当社がGFファンドの保有するアドアーズ社株式に対して質権を付し担保設定しますが、当社がGFファンドに代わりアドアーズ社の筆頭株主にはならず、その意図もございません。

また、上述のような業界の淘汰・再編という当社の考える中長期的なビジョンを踏まえたうえで、GFファンドへの当該資金の融資に加え、本来の目的であるアドアーズ社との資本・業務提携の一層の強化に備えるための戦略的資金のほか、当社独自の成長戦略に必要な前向きな投資として、以下の案件につき検討しております。

第一には、同年5月1日に大阪なんばエリアへオープンいたしました「JJCOINS」モデルのさらなる

展開として、今後数店舗の繁華街への出店を検討しております。第二に、平成21年10月6日公表しております株式会社ジパングに対するスポンサー資金にも充当する計画で、同社はアミューズメント景品の企画・製造を主要事業としており、中国での商品の生産及び関東地方に強い営業基盤を有することから当社子会社である株式会社ブレイクとの協業にメリットがあると考えております。また、当社が同業界及び関連業界において当社との協業によりシナジーの創出を見込むことのできる企業等へのM&Aとして、現段階において数件の具体的な検討を進めております。さらに、当社が営む投資事業について、さらなる業容拡大を目指しております。これについては、あくまで本業はアミューズメント事業ではありますが、反面、アミューズメント事業は急速な収益の増加が見込めない面もあり、本業を軌道に乗せるための補完的役割として、当社の既存事業の範囲に捕らわれず収益への寄与が見込める有価証券、不動産、資産担保証券等への投資事業も合理的経済活動として積極的に取り組んでいく方針であります。なお、既に具体的な高収益案件の検討も、実現性の高いものとして進めております。

以上の投資計画の実現のため、金融機関等へ融資の可能性について交渉を重ねた結果、当社の代表取締役社長を務める藤澤が当社とは別に経営するファイナンス事業による取引実績に基づく信用力もあり、日本振興銀行株式会社より資金調達の目処がつき、93億円の借入を行うこととなりました。当該借入及び投資の実行については、当社の今後の成長戦略を確実に実現するために必要不可欠であると認識しております。

また、当社の親会社である Revival Asset Management 1号投資事業組合から借入極度基本契約書（平成20年9月11日付締結。平成21年9月14日付け条件変更。現状、極度額20億円、最終期限：平成25年9月10日。借入金利は2.7%、本日付の残高は1,330百万円。極度額限度内において、都度借入可能）に基づき借入れている資金については、常に借り入れることの可能な資金枠として最大限確保しておくことが望ましく、また親会社からの独立性の確保をより強めることを目的として、借入金利は上昇するものの、この度の借入に伴い一旦返済をいたします。

なお、現在検討中の資金使途が正式に決定した際には、適時開示基準に則り速やかにお知らせいたします。

2. 多額の借入に対する考え方

当社の平成21年7月期における連結貸借対照表の純資産額227百万円、総資産額2,370百万円、有利子負債残高1,689百万円に比して当該借入額は多額ではありますが、現在計画している投資案件への積極投資及びその他の前向きな検討案件に備えた資金は、これからの当社が持続的な成長軌道を描くために必要不可欠な資金であると認識しております。また、現在の市況による資金調達環境を鑑みても、この時期の積極的な投資は、競合他社に先んじることで優位性を確立する意味でも非常に重要な戦略であると認識しております。

なお、本借入について、本日の取締役会でも、全取締役及び全監査役が賛同のうえ、決議しています。

3. 借入の内容

- | | |
|-----------|--|
| (1) 借入先 | 日本振興銀行株式会社 |
| (2) 借入金額 | 93億円（当社80億円、株式会社ブレイク13億円）
※アップフロントフィー251百万円を借入先へ融資実行時に支払う。 |
| (3) 借入金利 | 4.0% |
| (4) 借入予定日 | 平成21年11月27日
※株式会社ブレイクについては借入日が12月上旬となる可能性があります。 |
| (5) 返済期間 | 10年（借入額の60%につき毎月元利均等払い、残40%については最終期日一括） |
| (6) 資金使途 | ①アドアーズ社との提携の一層の強化を見据えた戦略的資金（40億円の貸付及びその他約15億円、支出時期：平成21年11月末以降）
②JJCOINSモデルの新規出店のための資金（約2～4億円、支出時期：平成22年1月～7月）
※大都市、駅前繁華街立地を中心に、今年度中に2～3店舗程度の出店を検討しております。
③株式会社ジパングへのスポンサー資金
民事再生手続中のため、支援の時期については民事再生確定後に委ねられますが、当社がスポンサーとして決定した際には、認可された再生計画に則り同社に対する出資もしくは融資等を行ってまいります。
④企業買収資金（約10億円、支出時期：平成21年12月～平成22年7月） |

現状、数件の案件を検討しております。投下資金規模は1件あたり数千万円～10億円を想定しております。投資期間は今年度中に実行していく予定です。

⑤投資事業案件への投資資金（5～15億円、支出時期：平成21年12月～平成22年7月）

現状、数件の案件を検討しておりますが、有価証券、不動産、資産担保証券等に投資します。想定資金規模5～15億円。想定投資期間1ヶ月～3年。12月から実行していく予定です。

⑥親会社からの借入金返済（13.3億円、支出時期：平成21年12月初め頃）

(7) 担保

①アドアーズ社の普通株式25,178千株（うち本日現在の当社保有分4,678千株）

②不動産（株式会社ブレイク所有分評価額約5億円及びガイア社所有分評価額約20億円）

③当社のGFファンドに対する本件貸付債権40億円

(8) 財務制限条項

特になし

(9) 当社との関係

資本関係 当社代表取締役社長である藤澤が全額出資のネオラインキャピタル株式会社が行の発行済株式の3.2%を保有。

人的関係 該当なし

取引関係 該当なし

※「(6) 資金使途」に記載の投資金額及び支出時期等についてはあくまで本日現在での概算値であり、実際には変動する可能性が十分にあります。

4. 貸付の内容

(1) 貸付先 GF投資ファンド投資事業有限責任組合

(2) 貸付金額 40億円

※アップフロントフィー200百万円を融資実行時に貸付先より受け取る。

(3) 貸付金利 7.0%

(4) 貸付予定日 平成21年11月27日

(5) 返済期間 5年（毎月元利均等払い）

(6) 担保

①アドアーズ社株式20,500千株

②ガイア社所有の不動産（評価額約20億円）

③連帯保証人：ガイア社（GFファンド出資者の一部が経営）

※当社は、当該貸付先であるGFファンドの資産及び財務内容を確認し、また反社会的勢力との関連もないものと認識しております。GFファンドと有限責任組合員の間で有限責任組合員を劣後貸付人とする劣後特約付金銭消費貸借契約を締結しており、GFファンドが当社に対する元利金の弁済に対して資金が不足する場合、劣後貸付人がその不足額を同ファンドに対して貸し付けることを約しており当社の貸付債権は優先的に担保されております。また、同ファンドを構成する有限責任組合員も当社の貸付債権を十分担保するだけの収入を継続的に得ており、資産についても相当に保有しておりますので特段問題はないと考えております。

5. 貸付先の概要

(1) 名称 GF投資ファンド投資事業有限責任組合

(2) 代表者 無限責任組合員 有限会社ジースリー

（代表者：亀谷 俊秀 事業内容：投資事業有限責任組合財産の運用及び管理）

(3) 所在地 東京都中央区日本橋馬喰町一丁目7番1号

(4) 組成日 平成18年3月15日

(5) 組合構成人員 無限責任組合員(1名)、有限責任組合員(10名)

※有限責任組合員は、ガイア社の株主及び経営者の一部と重複しております。

(6) 組成目的 有価証券の取得、保有を含む投資事業

(7) 保有資産 アドアーズ社株式20,500千株

(8) 当社との関係 人的関係・資本関係・取引関係のいずれも該当事項はございません。

※なお、当社グループと本件に関連している4社(日本振興銀行株式会社、GFファンド(出資者を含む)、ガイア社、アドアーズ社)については、本開示文中内に記載の取引以外には、本件に関わる契約はございません。

6. 今後の見通し

今回の資金調達・貸付により、当社の借入金 93 億円全体に対する支払利息と個別のGFファンドへの貸付 40 億円から得られる受取利息を比較すると、損益上 5 年間の累計で約 8 億円のマイナスとなりますが、GFファンドへの 5 年間の貸付期間中はキャッシュフローベースで累計約 6 億円のプラスであります。また、同ファンドへの貸付以外の借入資金残については、他投資等を実施していくことにより利益を確保してまいります。今後の当社業績に与える具体的な影響は、明らかになり次第、適時開示基準に則り速やかにお知らせいたします。

また、貸付先からの返済が万が一滞った際には、当社は相当額の担保を有しておりますが当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。これについても、そのような事象が生じた場合には適時開示基準に則りお知らせいたします。

以上